

2001年4月15日発行
〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-15-9
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771
e-mail. hoshiba@ain.co.jp
発行責任者 干場貴二

今年の桜はなんとなく咲いてなんとなく散っていった感じがしませんか。ちょっと残念でした。皆さんは今年のお花見はいかがでしたか？ まあ、これも年中行事として楽しみましょう。

さて、わが「ほしば歯科医院」も4月から新しいスタッフを加え、心機一転新年度をスタートしました。まだまだ発展途上の診療室ですが、これからもよろしくお願い致します。

顎関節症（がくかんせつしょう）

かつて歯科の二大疾患と言われていたのは「虫歯」と「歯槽膿漏（しそうのうろう）」です。しかし、最近では「顎関節症（がくかんせつしょう）」を入れて三大疾患と言われるようになりました。「虫歯」や「歯槽膿漏」と比べてまだ知名度の低い顎関節症ですがどのような病気かご存知でしょうか。今回はこれについて少し解説していきましょう。

顎関節症の主な症状としては次の3つが挙げられており、このうち1つ以上（2つ以上という定義もある）の症状が生じた時に顎関節症と診断されます。

- 1 顎が痛い（安静時，運動時）
- 2 顎が開けにくい
- 3 顎を開ける時に音がする

顎関節症で怖いのはこれだけではありません。頭痛、極度の肩こり、腰痛に悩まされたり、目が疲れたり、ひどい時には集中力が欠如したり。

このように恐ろしい病気の原因の1つとして「噛み合わせ」があります。成長期によく噛む習慣がなく、歯並びが乱れてしまったようなケースも最近多く、顎関節症の急増との因果関係も取りざたされています。また、虫歯を治したあとの金属が少し高かったりする時でも生じることがあります。

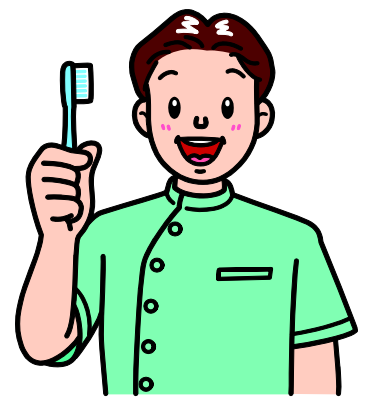
その他にも日常生活の姿勢のあり方や悪習慣などにも起因していると言われていています。例えば、足を組んだり、字を書く時にかがむようにしていたり、頬杖（ほおづえ）を付いたり、さらには寝る時の姿勢にも関与しているとも言われています。

このような顎関節症に対し、当医院では大きく2つのアプローチをしています。1つは、噛み合わせの調整や「スプリント」と呼ばれる装置を用いて直

接噛み合わせを修正していく方法です。調整量と言っても約20ミクロン（このニュースレター1枚分の厚さ）程度の調整量の時もあります。また、スプリントと言うのはスポーツ選手が装着しているような「マウスピース」のことで、夜間寝る時に装着してもらいます。これを装着することにより、歯が直接噛み合わないようにします。

また、もう1つのアプローチとしては生活に関するアドバイスです。前述のような悪習慣を改善したり、症状がある時に硬いものを噛まないようにしたり、大きく口を開けないように注意します。

このようなアプローチをしてもなかなか治癒しないケースもあります。というのも、顎関節症自体まだまだ解明されていないことが多く、まだまだその研究も発展途上であるからです。ただ、進行性の病気と言うわけではありませんから、深刻に考え過ぎないようにして下さい。



人事

今年度から新人の歯科医師、駒林讓先生が新たに加わることになりました。これからは干場、五島、清水、駒林、そして矯正の森と五人体制になりました。これからもよろしくお願ひいたします。

駒林讓（こまばやしゆずる）

1974年 東京都生まれ
1993年 京華高校卒業
2000年 日本歯科大学歯学部卒業

趣味；テニス、野球、スノーボード
抱負；毎日を大切にして頑張ります

患者さんのお話

当院の患者さんの中でも特に遠くから通院して頂いている方がいます。鎌倉から来院されるY先生夫妻です。以前僕（五島）が北里大学に出向に行っていたときからお付き合いのある方で、日本歯科大学（飯田橋）に戻ってから、そしてほしば歯科医院に勤務するようになってからも通って頂いています。

Yさんご主人はベテランの耳鼻咽喉科医です。長身でスマートな元慶應ボーイで、診療室でもひときわ目立ちます。Y先生のために「鬘鏢(かくしゃく)」という言葉があるのかと思ってしまいます。それに対して奥様は、小柄で控えめな方で、上品さがただよってくるような方です。

僕の両親よりも年上のお二人ですが、いつも「うちの両親もこんなに格好良かったら」などと思ってしまいます。そんなことよりも自分たちが見習わなければなりませんね。

<どすこい！ 蒼樹山情報>

何度かこのコーナーでもご紹介している、当院患者の蒼樹山(あおぎやま)関(先場所は十両二枚目)。大阪場所では初日に首を痛めるというアクシデントがあり、三日間の休場を余儀なくされました。ところが、ところがです。復帰してから快進撃が始まり、八勝四敗三休という奇跡の勝ち越し。幕内復帰は微妙な所ですが、今後の活躍が本当に楽しみです。皆さんも応援して下さいね。

診療のお話

インプラントの話

歯科の先端医療の一つとしてインプラントがあります。歯が抜けてしまった時、骨の中に心棒(しんぼう)を埋め込む手術を行い、歯の根っこと同様な役目をおわせるというものです。歯が抜けても、今までと同様に差し歯が作れるという夢のような治療です...。本当ですかね。

実は、こういったうたい文句でインプラントを積極的に導入している診療機関もあります。しかし、冷静に考えてみてください。骨の中に心棒を打ち込むということはちょっとした手術です。患者さん自身の骨の状態や太さ、厚さ等によってもその成功率は大きく異なります。

また、インプラントは入れてしまえば一生持つと思っている方もいるようですが、そうとは言いきれません。インプラントの先進国である北欧などでは、その患者さんがいかに歯を磨けるかということ

徹底的に調査し、その基準をクリアした人だけに手術を行い、さらに、ほぼ生涯メンテナンスを継続していきます。それに対し日本では、インプラントを入れたとしてもその後のメンテナンスが十分でなく、数年でインプラントが脱落してしまう例が多くあります。しかも、一度インプラントに失敗した骨は貧弱となり、通常の入歯を入れるにも辛い条件になってしまいます。

もちろん危険をおかしてでもインプラントを入れたいという方の気持ちは良く分かります。入れ歯と違って見た目では分からず、取り外しも多くの場合は不要です。

しかし、これだけの身体的負担(入院が必要なケースもあり)、そして経済的負担(数十万から数百万円)をかける訳ですからじっくり考えて決断して下さい。

〔文責 五島〕

ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771 (院長直通)

e-mail hoshiba@ain.co.jp (干場)

tomogoto@ra2.so-net.ne.jp

(在宅診療部；五島)

編集後記

今年のお花見はいかがでしたか。もう少し良くなるのではと思っている間に終わってしまった、なんてことはありませんでしたか。さて、何事もタイミングが重要です。痛みがひどくなる前に歯医者に行くのも一つのタイミングでは？(T)

コラム

傾蓋如故(けいがいこのごとし)

偶然に出会っただけなのに、まるで古くからの友人のように、うちとけて親しみ合う事を言います。ほしば歯科医院に来院なされた皆様も何かの縁でお見えになった訳です。安心して治療を受けられるように、またその縁を大切にしていきたいと思っています。